



卒業論文にとりかかる（改訂版）



✦ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

I. イントロダクション

「卒業論文にとりかかる」とは？

「そろそろ卒論にとりかからなければ…」とと思っている方もいらっしゃるでしょう。でも、一体何から手をつければ良いのでしょうか。

「卒業論文を書かないと…」、「何かしなければいけないけれど、何をすればよいのか分からない…」

このるくばすは、そんな悩みをもつ方が無事に執筆にこぎつけられるよう、その助けとなることを願って書きました。本格的な執筆が始まっておらず、研究が軌道に乗る前の方が主な対象です。

すでに具体的な研究に取りかかり、論文の執筆が始まっている方は、執筆方法そのものに着目した他のるくばす(例:「ジャンル別日本語での作文技術」「参考文献の書き方」)や[ラーニング・サポーターによる講習会のテキスト](#)がありますので、そちらを参照ください。

II. テーマの探索

取り組みたいテーマを絞って指導教員に相談する

ひとまずは関心のある分野から考えてみましょう。研究したいテーマに関わるのは、歴史でしょうか、教育でしょうか、文化でしょうか、言語学でしょうか。

卒論のテーマは、執筆を終えるまでの約一年間、ひたすら向き合うことになります。途中で行き詰まってテーマを全く別のものに変えると、論文の執筆以前に調査そのものが振り出しに戻ってしまい、完成が遠のく結果になりかねません。慎重に選びましょう。

それでも、ただ独り机に座ってテーマを考え出すのでは途方に暮れてしまいますよね。まずは論文集の目次などを利用して、多種多様なテーマをざっと見ながら興味を持ってそうなものに少しずつ絞ってみるのはどうでしょうか。論説資料などの目次をざっと見て、おもしろそうだな、と思ったものがあれば、その論文を少し読んでみるのもいいでしょう。

興味のあるテーマをいくつか絞れたら、それらをメモしたうえで指導教員に相談しましょう。資料媒体の豊富さや研究のおおまかな方針などの観点から、有益な助言がもらえると思います。

何も思い浮かばない、論文集もどのような類のものから手をつければいいのか分からないという方は、何はともあれ自身が指導を仰ぐ教員にその旨を正直に伝えることが大切です。大学の教員は特定の分野について日々研究をおこなっているほか、別の分野を専門とする他の教員との繋がりをもっています。おすすめのテーマや最近話題のトピックを教えてもらえるほか、分野外の範囲であっても、それを専門とする方にコンタクトをとってもらえるかもしれません。

(学部や学科によっては、所属しているゼミの分野が明確に定まっている場合(文学ゼミ・史学ゼミ・言語学ゼミ etc.)もあると思います。指導教員が対応可能なテーマであるかどうかの確認という意味において

も、早めの相談が非常に大切です。)

III. 研究するテーマの選定

希望するテーマが複数ある場合でも、最終的には一つに限定しなければなりません。前述のように指導教員に相談しても、複数のテーマを提案されたり、考えてきたテーマがいずれも可能であると回答だったりして、いよいよ優劣がつけがたいというような場合もあります。テーマは慎重に考えなければいけません。卒業論文の主な作業はあくまで研究と執筆なので、なるべく早く決定したいものです。以下に、テーマを選定する際に参考となる観点をいくつか列挙しました。

(A) 参考資料へのアクセスの難易度

関心のあるテーマであっても研究が進めやすいとは限りません。ときに内容の斬新さと資料の豊富さが比例しないこともあります。図書館のデータベースを検索して、円滑な資料の入手が可能であるか、複数の資料が存在するかどうかを、おおまかに把握しておきましょう。

(B) 言語

豊富な資料があることが判明した場合でも、それを読み進めることを念頭に置く必要があります。自身に対応可能な言語の範囲で先行研究を読むことができるか否かは、テーマの選定にあたって重要な指針のひとつです。英語の読解も正直厳しいという方は、なおさらこの観点を考慮に入れることをおすすめします。ある程度外国語の対応に慣れている方であっても、日本語や英語以外の資料が多い場合は、その邦訳や解説がある程度存在するかどうかの確認もおきましょう。

(C) 将来的な研究の可能性

大学院を受験する可能性があるのであれば、大学院での研究まで見据えて、卒業論文執筆後もさらに発展させることが見込める研究テーマにした方がよいかもしれません。ご自身で判断しきれない場合は、指導教員に進学を踏まえた研究テーマの相談をしましょう。

テーマの選定に関して様々な助言を述べてきましたが、最終的には自身の決断が必要です。ここまでの助言を受けてじっくりと考えた自分であれば、どのテーマを選んだとしても、できる限りの成果を出せるはずであると信じて、思い切って決めてしまいましょう！

IV. 研究内容を構想する

テーマが決定したら研究内容の具体的な構想に進みます。研究の全体的な筋道が描けていると、資料集め、分析、執筆などの作業を円滑におこなうことができます。本格的に取り組む前に、卒業論文に求められているレベルや研究の進め方がある程度把握しておきましょう。

この時点で、具体的にどのような調査や研究ができそうなのか、自身の構想も踏まえて、指導教員と改めて相談することをおすすめします。指導教員は今まで多くの学生の卒論を指導してきているため、いただく助言は研究の指針を明確にする際にもっとも役に立つことでしょう。指導教員が卒論の範囲内では難しいとおっしゃるのであれば、頑なにその方向性で作業を継続することは勧められません。見通しの甘さによって後々行き詰らないように、指導教員と話し合っておきましょう。

V. 先行研究を調べる

先行研究の意義

テーマが決定し、卒論に要求される水準がおおまかに把握できたら、先行研究の収集に取りかかりましょう。先行研究とは、自身よりも先に同様のテーマについて研究をおこなった方がその成果をとりまとめた資料のことであり、学術雑誌に寄稿された論文から一冊の著作まで、様々な形態が存在します。

ところで、先行研究は何故必要なのでしょう？自分の思いついた調査の方法のみで研究することはできないのでしょうか？

自分にとって使い勝手の良いマイデスクの作成を想像してみてください。木材やステンレス材を入手し、自らサイズを測ってそれらを加工することから始めるでしょうか。日曜大工に手慣れた方でない限り、それらの作業が時間と労力の両面において非効率であることは明白でしょう。多くの方の場合、市販のデスクを購入し、設計図に従ってそれを組み立てた後に、後付けの収納や飾りなどによって自分だけのデスクを作り上げていくのではないのでしょうか。卒業論文の執筆において辿る工程はこうした机の作成によく似ています。先行研究とは、該当の分野を研究際の「思考のモデル」なのです。設計図に従えば時短となり、見栄えや立てつけの悪い机ができにくいように、先行研究を通読して思考の型を身につけると、効率よく必要な知識を手入れされるほか、研究における矛盾や見落としが少なくなります。私たちは、先人の作成した設計図(=先行研究)に新たな創意工夫(=自分の見解)を加えて、自分だけの作品(=研究成果)を生み出すのです。

先行研究の探し方

それでは、先行研究を探していきましょう。そうはいつても、資料の数が膨大で何から手をつければいいのか分からない方もいますよね。ここでは、

- 1) 具体的な検索方法
- 2) 必要な論文を見極めるポイント

の二点を解説します。

1) 具体的な検索方法

方法①: 指導教員にそのテーマに直接かかわる代表的な論文、著作を教えてもらう

指導教員から該当する分野における良書を薦めてもらった場合、また、その分野で避けては通れない著作や研究者の名前を教わった場合は、迷わずそれらの本を読みましょう。代表的な資料が分からない場合や、自分で探すように指導された場合は、②、③の方法に移ります。

方法②: 大学図書館の蔵書を探す

該当するテーマのキーワードで図書館の蔵書を調べましょう。広く一般的に使用される語で検索すると、他分野のものを含む多数の資料が対象となってしまいます。研究分野の中核を担うような専門性の高い用語を選び、さらにそういった用語を複数入れるなどによって、検索の範囲を限定していきましょう。詳細検索の絞りこみ機能を利用することで表示件数を限ることも可能です。(例: 所蔵館で「外国学図書館」、資料タイプで「図書」、言語を「日本語」を選択するなど)。ざっと見渡せる件数に落ち着いたら、タイトルを参考に入門に

ふさわしい本を一冊借りてみましょう。

方法③：データベースから見当をつける

自身が思い当たる範囲でキーワードの検索をかけてみても適当な図書が見つからない場合は、CiNii Research (<https://cir.nii.ac.jp>)に自身の研究分野のワードを打ち込んで、検索結果を眺めてみましょう。このデータベースには大阪大学の蔵書以外の資料も広く記載されているため、自身の必要とする資料が学内に所蔵されていない場合に有用な手立てとなります。また、該当の分野に携わる主要な研究者を知ることができるので、それらの研究者名を著者名として再度大学図書館の蔵書の検索を試みても良いかもしれません。

また、皆さんの指導教員や、ゼミや研究室にいる先輩の研究から、研究手法や問いの立て方を学び取ることも手段として有効です。まずは学内紀要を手に取り、身近な人たちがどんな研究をどのようにやっているのか確認してみましょう。紙媒体だけでなく、大阪大学学術情報庫（OUKA）でオープンアクセス化されているものが多いので、自宅からでも情報へのアクセスが可能です。以下はその一例です。

<人文学研究科（旧言語文化研究科）が発行する学内紀要> 『言語文化研究』、『EX ORIENTE』、『ハンガリー研究』、『スウヒリ&アフリカ研究』、『阪大日本語教育学研究』ほか

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/cate_browse/?lang=0&codeno=journal&schemaid=3000&catecode=200080#

<日本語・日本文化教育センター（CJLC）が発行する学内紀要> 『日本語・日本文化』、『間谷論集』ほか

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/cate_browse/?lang=0&codeno=journal&schemaid=3000&catecode=200160

方法④：上記①～③で手に取った著書や論文の参考文献を参照する

方法①～③によって入手した資料によっても知識を深めることは可能ですが、その資料の参考文献の確認も欠かせません。資料のなかには、調べたいテーマと密接な関わりがあっても、題目などが検索に使用するキーワードに対応しないことで、図書館の Web 検索によって探し出すことができないものも存在します。そのような著作も、前述の方法で手にした資料に記載されている参考文献の一覧を参照することで見つけ出すことができるかもしれません。新たに入手した資料の参考文献リストも同様に確認することで、芋づる式に必要な先行研究を揃えていきます。

2) 必要な論文を見極めるポイント

・複数の論文で引用されている文献は、重要である可能性が高いです。

・論文や書籍によっては、本文中で該当するテーマの先行研究を概括的に紹介している場合があります。以下は実際の資料からの抜粋ですが、スペイン語の「叙法」という文法の分野に関する様々な見解が、各立場を支持する先行研究を列挙する形式でまとめられています。

2.3. 一元論・二元論・多元論、有標・無標

ここまで紹介した見解の多くは、直説法、接続法の機能はそれぞれ単一の原理に収束するという、一元論に基づくものだった。しかし中には、Lenz (1920)、Lozano (1972)、出口 (1981) のように、接続法に2種の相違なる機能を認める、二元論を採る研究者もいることが確認された。(中略)

さらに、接続法はもっと多くの異質の機能を担っていると見る多元論も提唱されている。Ramsey (1898)、Kleiman (1974)、Bell (1980)、Borrego 他 (1986)、出口 (1997)、Butt & Benjamin (2011)がこれに属する。(中略)

叙法を論じるに際し、原理の数の問題の他に、2つの叙法的一方を有標と見るか否かという論点が存在する。多くの研究者は、直説法を無標、接続法を有標と見なしていると思われる。この点に明確に触れているのは、Pottier (1972)、RAE (1973)、寺崎 (1998) などである。

(福嶋教隆 (2019) 『スペイン語のムードとモダリティ 日本語との対照研究の視点から』くろしお出版 pp.17-18)

例示されている先行研究の有用性については、それらを実際に読まなければ把握できないこともありま

すが、自身の取り組むテーマに関して情報収集をおこなう際に、検索の指標として役立つことに違いはありません。前述したような文に記述されている一連の資料のなかで、自身の研究に必要なだと思うものに目星をつけたら、参考文献から題目を確認のうえ、図書館で資料を借りてみましょう。

ここまでで紹介した検索の作業は、必須である一方で、あくまでも研究のスタート地点に過ぎません。先述の通り、先行研究を調べる目的は、自身の論を構築するための基盤となる思考のモデルを身につけることにあります。資料の収集に没頭して、当初の目的を見失わないように注意してください。

研究に必要な資料をある程度揃えた段階で、ようやく卒業論文にとりかかる準備ができました。続く執筆の作業では、新たな疑問や不足点に気づき、筆が進まなくなることもあるでしょう。しかし、それはただの停滞ではなく、書きすすめるうちに考えが整理されることで、収集が必要なデータや読むべき文献がより明確になっている証です。「案ずるより産むが易し」はまさにこのこと。推敲は期限内であれば何度でも可能ですから、まずは思い切って書き始めてみましょう！

《卒業論文に役立つ著作一覧》

・ [渡辺潤, 宮入恭平編著 \(2013\) 『「文化系」学生のレポート・卒論術』 東京：青弓者](#)

[総合図-A棟2階 アカデミック・スキル・コーナー 816.5||WAT]

pp. 61-133の「パート2 レポートや卒論を書くために使えるようなコンセプト」が、研究テーマの選定に役立ちます。

・ [上野千鶴子 \(2018\) 『情報生産者になる』 東京：筑摩書房](#)

[総合図-A棟3階 学習用図書 002.7||UEN]

そもそも、どうして卒論を書かなければいけないのか？とってしまう人におすすめです。読み解きやすい文体で、情報生産者になることがどういう意味を持つのか、どうしたら情報生産者になれるのかを解説しています。

・ [小笠原喜康 \(2018\) 『大学生のためのレポート・論文術』 東京：講談社](#)

[総合図-A棟2階 アカデミック・スキル・コーナー 816.5||OGA]

タイトルの通り、レポート・論文を執筆するために必要な参考文献リストの書き方や、引用の作法から情報収集のやり方まで、幅広く網羅しています。この新書一冊で、卒論を書くために最低限の技法は身につけることができます。学部3・4年生にとって、pp. 141-201の「第5章 卒業論文」は必読です！

・ [佐藤雅昭著 \(2016\) 『なぜあなたの研究は進まないのか？：理由がわかれば見えてくる、研究を生き抜くための処方箋』 大阪：メディカルレビュー社](#)

[外国図-4階キャリア支援図書 K]

・ [佐藤雅昭 \(2017\) 『なぜあなたの発表は伝わらないのか？：できてるつもり!?そこが危ないプレゼンテーション』 大阪：メディカルレビュー社](#)

[総合図-A棟2階 アカデミック・スキル・コーナー 490.7||SAT]

・ [佐藤雅昭 \(2016\) 『なぜあなたは論文が書けないのか？：理由がわかれば見えてくる、論文を書ききるための処方箋』 大阪：メディカルレビュー社](#)

[外国図-4階キャリア支援図書 K]

✧ [パスファインダーの凡例]

- 図書の情報には以下の順に表記しています。(主に論文の参考文献に使われている書式です。)

著者名 (出版年) 『本の名前』 出版社名, 翻訳者名 (あれば)

- 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館 (豊中キャンパス)

生命図 → 生命科学図書館 (吹田キャンパス)

理工学図 → 理工学図書館 (吹田キャンパス)

人図 → 人間科学研究科図書室 (吹田キャンパス)

外国図 → 外国学図書館 (箕面キャンパス)

外国図-雑誌 → 直近1~2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

- 検索を容易にするために、ISBN (各図書固有の識別番号) や ISSN (各雑誌固有の識別番号) を記している場合もあります。

- 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LS デスクまでお尋ねください。